

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年2月27日
札幌市立稲陵中学校

1 本年度の学校経営の基本方針

- 1 生徒・保護者に信頼される学校づくり
- 2 教職員の協働体制による学校づくり
- 3 教職員と生徒・保護者・地域が一体となった学校づくり

2 本年度の教育推進の重点

- 1 学ぶ力の育成
- 2 豊かな心・健やかな体の育成
- 3 配慮を要する生徒への対応の充実
- 4 小中一貫した教育の推進
- 5 信頼される学校の創造

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

●印は自己評価 ○印は改善の方策

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校運営	1 今年度の実践目標(協働による教育力の向上)に基づいた教育活動が行われている。	A	●授業改善においては、日常的に教員同士が情報共有を行いながら、生徒理解や指導方法について共通認識を深めることができた。一方で、協働の成果をより計画的・継続的に教育活動へ反映させる点には課題も残った。 ○全校研修等を通して協働の質をさらに高め、生徒の学びや成長につながる組織的な取組として発展させていきたい。	A	A
	2 各種説明会や学年・学級PTA、学校ホームページ等によって、学校の方針や様子を伝えている。	A	●学年PTA集会や進路説明会を通して学校の方針や様子を伝えるとともに、学校HPやすぐるアプリを活用して情報発信を行った。また期末懇談時にはそれぞれの生徒の様子を伝え、学習に関するアドバイスをきめ細かく行うことができた。 ●修繕箇所があれば即時に対応しており、常に安心して学校生活を送れるように整備されている。夏場は熱中症指数の計測を行い、8月より稼働が認められたエアコンを適宜使用しながら、学習に集中できる環境を整えることができた。		
	3 安全で安心して生活できる環境を整備している。	A			
学校関係者評価委員による意見	・研究主題として掲げる「UDLを取り入れた授業実践・学級経営」について、UDLの実現には教職員が共通理解をもち、方向性をそろえながら取り組むことが不可欠である。個々の教員の実践にとどまらず、チームとして情報を共有し、互いの実践を学び合いながら組織的に対応していくことが、より効果的な教育活動につながると思われる。				
学びと健やかな体	4 「学ぶ力」育成プログラムに基づいた、わかる・できる・楽しい授業づくりをしている。	A	●課題解決に向けて、生徒が「わかる」「できる」実感をもてる授業展開を行うことができた。生徒アンケートでは「学校の授業はわかりやすい。」という質問に対して「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した生徒は全校の90.6%であり、一定の成果があった。 ●教職員の家庭学習に関する評価項目については、昨年度より0.4ポイント上昇し、A評価となったが、保護者・生徒は2.6ポイントと依然として低い値を示している。 ○午前授業の日の午後課題や長期休業中の課題について学校組織として共通理解を図り、家庭学習の定着のきっかけとなるような指導を行ってきた。引き続き、それらの指導を継続するとともに、小テストや単元テストなどを行い、家庭学習の動機付けにしていきたい。	A	A
	5 課題の工夫など、家庭学習を定着させる指導をしている。	A	●各教科で振り返りを行い、生徒が達成感を実感できる場面を設定した。生徒が記述した振り返りを達成度や理解度に応じて評価し、自己の学習の定着度がわかるような工夫を行うことができた。 ●発達段階に応じて近隣の高校調べや職場体験、職業講演会を実施し、卒業後を見通したキャリア教育を行うことができた。職業体験は本校を会場に行ったが、9コースに及ぶ豊富な体験コースが設定でき、生徒にとって貴重な体験となった。		
	6 生徒に自分の学習状況を把握させ、成長(意欲の向上)につながる評価を行っている。	A	●特別の教科 道徳では、学年の教師が授業ローテーションを組むことで、一つの見方に偏らず多面的・多角的な価値観に触れる機会を与えることができた。 ●体育の授業において、陸上やダンス、器械体操の単元でICT端末を効果的に活用した振り返り活動や話し合い活動を展開した。校内のテレビ放送を活用して、栄養教諭と養護教諭による食と健康に関する授業を行った。また健康と食生活に関するアンケート結果を考察し、朝食摂取の習慣化や睡眠時間確保の必要性を生徒、保護者に発信している。 ○朝食を摂る生徒の割合が全市と比較して約4%低い。引き続き保健の授業や講話を通して必要性を呼び掛けていきたい。		
	7 3年間を見通したキャリア教育・進路指導を行っている。	A	●特別な教育的支援を必要とする生徒については、校内学びの支援委員会と協議し、本人や保護者の意向を踏まえながら、別室登校やリモート授業等の対応をとるなどの支援を適切に行うことができた。		
	8 学級活動や行事への取組を通して、望ましい人間関係の育成をしている。	A			
	9 豊かな心をはぐくむ道徳教育が行われている。	A			
	10 「健やかな体」育成プログラムに基づき、生徒自ら進んで運動に親しむ指導や健康な体づくりに必要な食指導を行っている。	A			
	11 個々の生徒に応じた指導や支援が適切に行われている。	A			
学校関係者評価委員による意見	・家庭学習については、学校と家庭が両輪となって生徒にどう関わらせていくかが今後の課題となっていくと思う。 ・職場体験や旅行的行事をはじめとした体験的な学習等を通じて、実物に触れる機会をこれからも継続してほしい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心	12 身だしなみ・時間などのきまりや、挨拶・礼儀などのマナーを十分指導している。	A	●4月当初に生徒指導研修会を設定し、生徒指導における共通理解を全職員で図った。普段の学校生活だけではなく、長期休業前には長期休業期間中の生活のきまりを配付するなどして、指導している。また委員会や学年協議会の活動の中でも、生徒が自発的に身だしなみやチャイム着席の徹底を呼び掛ける活動が見られた。 ○放課後に学校から塾に直接向かう生徒の一部に塾で使用するタブレット端末の持ち込みがあった。校内で使用する生徒はおらず、登校後は担任に預かってもらうという対応をとった。次年度は年度初めに再度その取扱いについて全体で共有したい。	A	A
	13 いじめを許さない指導と命を大切にす指導に取り組んでいる。	A	●いじめに関する道徳教材をはじめ、8月にはスクールカウンセラーによるいじめに関する講話を全校一斉に実施した。いじめの具体例をもとにいじめに関わる様々な人の立場に立って考えを深める指導をすることができた。		
	14 校内で起きた様々な問題について、適切な指導をしている。	A	●日常的に些細な変化による気づきや生徒の声に耳を傾け、そこから判明した指導案件について、迅速に対応に当たることができた。また指導の経過については、書面にまとめて職員全体で情報共有することができた。		
	15 教職員は、子どもたちの悩みや相談に親身に応じている。	A	●令和7年度札幌市学校教育の教育を貫く重点「子どもの声を聴く」という姿勢のもと、学級担任だけではなく、学年所属の先生、教科担任、部活動顧問など複数で悩みや相談に応じることができる体制を整えることができた。それぞれが日常のコミュニケーションを通して信頼関係を築くことができています。		
学校関係者評価委員による意見	<p>・小学校においても子どもの悩みやちょっとした声を大切にしている。中学校においても引き続き大切にしていほしい。</p> <p>・最近ではフェイク動画や誤情報が多く、子ども自身がどれを信用してよいかわからないという声を耳にする。道徳科の授業等で、情報モラル教育についても取り扱っていただきたい。</p>				
開かれた学校	16 子どもたちが主体的に参加できるような日常の生徒会活動や旅行的行事が行われている。	A	●新入生歓迎集会や生徒総会、役員選挙では生徒が主体となって事前準備や当日の議事進行、司会を行い、自主性を育む活動にすることができた。 ●旅行的行事(校外学習・宿泊学習・修学旅行)では、小グループごとに係分担を決め、互いが協力し合いながら協力的に活動できた。 ●体育大会や雪に親しむ取組では保体常任委員会の生徒が主体となって役割分担を決めたり、当日の運営をしたりして主体的に活動することができた。 ○今年度の1年校外学習は小樽自然の村に貸切バスを4台チャーターして向かったが、年々高騰するバス代による家庭の負担を軽減するため、昨年度のような市内フィールドワークを視野に入れて検討する必要がある。(交通費は自己負担)	A	A
	17 地域・家庭・学校の三者が連携・協力する体制づくりを進めている。	A	○修学旅行に関しては、令和9年度より行先を関東方面から東北方面にシフトする予定である。これをきっかけに、次年度は旅行的行事及び総合的な学習の時間を系統的かつ一貫性のある学習にしていきたい。 ●稲陵祭や合唱発表会には多くの保護者の方々が来校し、生徒の活動の様子を見ていただくことができた。また、授業参観や学校公開日では、日常の授業の様子や生徒が意欲的に取り組む姿を参観していただくことができた。さらに学年PTA集会では学年の実態に応じた学習面や生活面の様子を伝えるとともに、各学年の旅行的行事のスライドを紹介するなど、開かれた学校づくりに努めてきた。 ●体育大会や稲陵祭では、PTAからドリンク、お菓子・うちわの提供があり、家庭と学校が一体となって学校行事を作り上げていると感じる機会となった。 ●稲陵祭ではPTAによる保護者喫茶、また12月には給食試食会の場を設定するなど、保護者同士が交流できる場をつくることができた。 ○PTA活動に関わっては、次年度にPTAの加入希望調査を行う予定である。PTA加入者数によっては活動の規模を縮小せざるを得ないことが予想される。		
学校関係者評価委員による意見	<p>・PTA活動のあり方についてはこれからの課題である。PTAがどのような組織なのかをPRしてより多くの方に知っていただき、充実した教育活動ができるよう、学校と家庭が一丸となって進めてほしい。</p> <p>・小中が連携して9年間の成長をふまえた総合的な学習の時間を教育課程に位置付けるとともに1つの大きなテーマを設け、様々なことに派生させながら学習できるのは、生徒にとって関心が高く、学びの多い学習になると思われる。</p>				